

所報

第127号 平成29年2月14日

江別市教育研究所所報

江別市高砂町24-6 TEL 381-1058
(主な内容)

- ・学力向上策ヒアリングを終えて
- ・道研連研究発表大会留萌大会の報告

平成28年度学力向上策ヒアリングを終えて

江別市教育委員会 学校教育課指導主事
江別市教育研究所

本年度の「学力向上策ヒアリング」を9月中旬～10月上旬にかけて実施しました。お忙しい中、校長先生、教頭先生はもとより主幹教諭、教務や研究等の担当の先生方の出席をいただきました。各学校の実態を踏まえた特色ある学力向上の取組について伺うことができ、誠に有難うございました。

本稿では、江別市の小・中学校の全国学力・学習状況調査の結果と江別市学校改善支援プランより課題改善策の一部抜粋、各学校の特色ある学力向上の取組の一部を紹介させていただきます。

全国学力・学習状況調査の詳しい結果は、江別市教育委員会のホームページに掲載されています。

1 平成28年度 全国学力・学習状況調査の江別市の調査結果 平均正答率 単位 (%)

教科	小学校				中学校			
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
江別市	72.5	57.7	77.7	46.5	74.7	65.4	62.1	43.9
北海道	71.0	56.0	75.3	44.5	75.1	65.0	61.8	43.3
全国	72.9	57.8	77.6	47.2	75.6	66.5	62.2	44.1

<質問紙調査に関する結果の概要>

- 平日に3時間以上テレビやビデオ見る割合は、小学校6年生は2.7ポイント、中学校3年生は1.3ポイント全国平均を上回っています。平日にテレビゲームを3時間以上する割合は、小学校6年生は1.1ポイント、中学校3年生は1.2ポイント全国平均を上回っています。
- 「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う」、「礼儀正しいと思う」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を大きく上回っており、江別市の学校は大変落ち着いた状態にあると言えます。
- 算数・数学の授業でパソコンや電子黒板、実物投影機等を活用して授業を行った割合は全国平均を大きく上回り、ICT（情報通信技術）を活用した授業が積極的に行われています。

2 調査結果から見られる課題の改善のために (平成28年度「江別市学校改善支援プラン」より)

- 全国学力・学習状況調査を活用した継続的な検証サイクルを確立し、学校がチームとして学力向上の取り組みを推進していく必要があります。

- 基礎的・基本的な知識・技能を活用することに課題があり、「見直し・ふり返し」をキーワードに学習内容の習熟・定着を重視した1単位時間の学習過程や指導方法等の工夫改善、アクティブ・ラーニングの視点に立ち、言語活動の充実、ICTの効果的な活用など、授業改善を進めるとともに、家庭学習の習慣化、放課後や長期休業期間中等における補充的な学習サポートを継続する必要があります。
- 児童生徒は落ち着いて授業に臨んでいますが、授業以外での学習時間が短いことから、学校と家庭が緊密に連携し、授業と宿題を関連付けた家庭学習の定着や望ましい生活リズムを確立する必要があります。
- 「自分にはよいところがあると思う」と回答した児童生徒の割合が昨年度を下回り、教育活動全体を通じて、自己肯定感、自己有用感を高める教育をさらに充実する必要があります。
- 中学校区内の小中学校間で、学校改善プランや学力調査等の結果、学習規律や家庭学習の習慣化な学習状況について情報を共有し、共通して重点的に取り組む指導内容を明らかにして、学力向上に向けた小・中の連携を一層推進する必要があります。

3 特色ある学力向上の取組

各学校の学力向上の取組の一部を紹介させていただきます。いずれの学校でも、基礎・基本の定着や学習習慣の確立等に意欲的に取り組んでいただいております。心から感謝申し上げます。

(1) 学校全体での組織的な取組

- 研究テーマに学力向上を位置づけ、授業改善や学習規律の徹底、学習習慣の定着等に学校ぐるみで取り組んでいます。
- 管理職、主幹教諭、教務、研究、各学年の代表等による学力向上検討委員会を立ち上げ、全国学力調査や標準学力検査の分析を行い、具体的な改善策を定め、組織的に学力向上の取組を進めています。

(2) ICT 機器の効果的な活用

- ICT 機器の効果的な活用について、計画的に校内研修を実施し電子黒板等の技能の習得や授業での積極的な活用を推進しています。教室内の機器の設置位置を統一している学校もあります。また、全小中学校でデジタル教科書の活用を推進しています。

(3) 学習規律

- 全ての学校が座り方や発表の仕方、机上の学習用具の配置などの学習規律を定め、校内で統一した指導を行っています。

(4) ノート指導と板書

- 学年の発達段階に応じた使い方や「課題」、「まとめ」を決められた色で囲む、「考え」を書くスペースを設けるなど、学校全体で統一したノート指導を行っています。
- ノート指導につながる「板書」を重視し、1時間の学習の流れや学習内容が一目でわかる構造的な板書にするため、指導案とともに板書案について校内研修に位置づけている学校もあります。

(5) 「見通し・ふり返り」をキーワードにした指導過程の見直し

- 導入段階で課題を明確にして、子どもたちが見通しを持って学習に取り組み、まとめの段階では、評価(確かめ)問題等を実施して定着状況の把握とサポートを行うなど、時間内に学習内容を確実に定着させる指導過程を取り入れる学校が増えてきています。

(6) 言語活動を重視した指導

- 自分の考えをもち、積極的に伝え合うことができるように、ペアやグループによる話し合いや交流を積極的に取り入れる学校が増えてきています。
- 調べたことや考えたこと、要約など、目的に応じて字数の制限や条件に基づいて書くことができるよう、国語科をはじめ他の教科、放課後学習等において書く活動を積極的に取り入れるようになってきています。

(7) 家庭学習の習慣化

- 学習内容の確実な定着のために、家庭における学習の習慣化に向けて、ほとんどの学校が週末も含めて計画的に宿題を出しています。また、週明けに確認テストを行っている学校もあります。

(8) 小・中学校の連携

- 小・中連携を推進するために、連携のための推進会議を立ち上げた中学校区が増えてきています。今後は、「学習規律」や「ノート指導」、「確実に身に付けるべき基礎・基本」の定着状況の引継ぎなど、9年間を見通した学力向上の取組をさらに充実していただくようお願いいたします。

道研連研究発表大会(留萌大会)の報告

平成28年9月1日(木)から2日(金)にかけて、平成28年度第71回北海道教育研究所連盟研究発表大会(留萌大会)兼第58回全国教育研究所連盟北海道地区研究発表大会が、留萌市で開催され、事務局長の宮野が参加しましたので、その概要を報告いたします。

《第1日目》

I 開会式

- | | | |
|---------|----------|--|
| 1 主催者挨拶 | ○ 前川 洋 | 北海道教育研究所連盟副委員長
(北海道立教育研究副所長) |
| 2 祝 辞 | ○ 銀島 文 | 国立教育政策研究所教育課程研究センター
総合研究官(基礎研究部副部長) |
| | ○ 井之口 淳治 | 北海道教育庁留萌教育局長 |



II 全体発表

第15次共同研究(2年次)「実践的指導力の向上に係る支援の在り方」について

- 発表者 中村 弘樹 平成28年度共同研究推進委員会委員長
(留萌管内教育研究所 主任研究員)

Ⅲ 記念講演

「教員の資質能力の向上を図る教員研修のあり方
～次期学習指導要領で、求められる教員の資質能力～」

- 銀島 文 氏 (国立教育政策研究所
教育課程研究センター 総合研究官)
 - ・平成25・26年「教員養成等の改善に関する調査研究」(国立教育政策研究所) コア・カリキュラムチーム チーム長
- 講演内容
 - ① 国立教育政策研究所・プロジェクト研究の成果
教員の資質・能力と教員養成の到達目標
 - ② 全国学力・学習状況調査に見る資質・能力
 - ③ 研修の例
 - ④ 理想の教師像に関する実態調査
 - ⑤ 最近の話題から



《第2日目》

Ⅳ 部会別協議

1 第1部会「授業改善に向けた取組」

<研究発表>

- 檜山教育研究所

「授業改善に向けた、檜山教育研究所の取組」
～授業力アップのための研修講座の実施を通して～

- 江別市教育研究所 (発表者：宮野事務局長)

「小学校外国語活動・英語活動の授業改善に向けた取組」
～小学校外国語活動・英語活動指導連絡協議会の活動を通して～

2 第2部会「校内研修の活性化に関わる取組」

<研究発表>

- 胆振教育研究所

「課題意識を高め、全員参画型の校内研修を目指して」
～教師の授業力を高め、児童生徒の学力向上につなげる研修の充実～

- 音更町教育研究所

「指導力向上事業」～豊かな心の育成～

3 第3部会「教員研修の充実に向けた取組」

<研究発表>

- 釧路教育研究所

「授業研究を生かした教員研修の充実」
～すべての子どもが「わかる・できる」授業の研究を通して～

- 上川教育研修センター

「研修と研究の両輪で推進する管内教育」
～現場のニーズに対応した研修センターを目指して～

